

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
地域福祉論 I	水谷 久	講義	2	社会福祉士	3	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	住民主体の地域福祉の創造と地域共生社会に向けた包括的支援について講義を進めます。 また、この科目では、地域福祉の理念や歴史、地域における高齢者・児童を含めた子育て世代・障がい者・困窮者等の生活と暮らしに焦点をあて、誰もが安心して暮らせる地域づくりについて考えながら、地方自治体・社会福祉法人・社会福祉協議会、住民組織・NPO・ボランティアなどの機関・団体の役割と機能、その現状や課題について理解を深めることを目的に授業を進めます。						
到達目標	授業の到達目標は、地域福祉が抱える課題や地域に求められる役割を把握し、誰もが自分らしく住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができる地域について考える視点を養うことを到達目標とします。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション (地域福祉の基本的な考え方について)						
2	地域福祉について (地域福祉と地域福祉活動)						
3	地域福祉について (地域社会の変化)						
4	障がい者の地域生活の課題 (安心して暮らせる地域とは)						
5	地域福祉の課題 (地域交流と地域福祉の推進)						
6	地域福祉の課題 (健康管理対策の充実)						
7	地域福祉活動計画について (地域福祉活動計画のテーマ・基本目標・具体的内容)						
8	地域の福祉課題を考える (自分が住んでいる地域課題の抽出：演習 I)						
9	地域課題を解決するために (地域課題の検討と解決案について：演習 II)						
10	地域福祉活動計画 (子育て支援について)						
11	地域福祉活動計画 (高齢者・障害者支援について)						
12	地域福祉活動計画 (災害時支援体制・住民主体による地域福祉の推進について)						
13	誰もが暮らしやすい地域を目指して (共生社会について)						
14	誰もが暮らしやすい地域を目指して (地域社会に求められるもの)						
15	試験及び試験終了後に、地域の役割 (自助・共助・公助) について説明						
予習内容 復習内容	予習：講義中に使用する配布資料 (プリント) に目を通す等。 復習：配布資料への書き込みとノート of 整理。						
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。						
成績評価	筆記試験又はレポート課題を 70%、出席時に積極的に発言する姿勢などを 30% とし、総合的に評価します。 6 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。						
実務経験	在宅介護支援センター及び障がい者相談支援センターや障害者支援施設での勤務経験有。 社会福祉法人の管理・運営及び障がい者・高齢者等の人権擁護や地域生活について相談支援活動をしています。						
その他 特記事項	・自らの居住する地域に関心を持って受講していただくことを願います。 ・講義の状況等により、内容を追加及び変更することもあります。						